

大阪医科大学学報

第83号 平成22年2月
(インターネット版)



シクラメン

◆目

看護学部の新設に当たって.....	2
看護学部設置記念講演会.....	3
出張報告.....	4
受賞等について.....	8
学位記授与式.....	10
研究助成金等について.....	11
中山国際医学医療交流センター.....	12
臨床研究教育研修会報告.....	15
医学会秋季学術講演会.....	16
学内行事.....	17
看護専門学校.....	19

◆次◆

市民公開講座.....	20
病院看護部.....	22
キャリア形成支援センター.....	25
医療安全対策室.....	26
感染対策室.....	28
緩和ケア委員会報告.....	29
寄付金報告.....	30
保健管理室からのお知らせ.....	32
主要会議報告.....	34
行事日程・俳句.....	37
LDセンターイルミネーション点灯式.....	38

看護学部の創設に当たって

看護学部の創設に当たって

大阪医科大学 学長 竹中 洋

本年4月に大阪医科大学に看護学部が新設されます。平成20年から始まった開設に係る種々の努力が実ったことを、皆様と率直に喜びたいと思います。看護学部新設は藤本学長の時代から本学看護専門学校の悲願でもあり、また自立した看護学は時代の要請でもありました。しかし、足掛け10年を超える夢が叶うまでの道のりは必ずしも順調でなく、直近の問題としては昨年3月の3大学共同学部構想の見直しから、本学単独事業としての看護学部開設に伴う財務整理、学内合意形成プロセスは多くの課題を残しています。



それでも看護学部の開設は多くの果実を学校法人に提供してくれました。まずは大きな事業を成功に導く努力の重要性と課題を克服してゆく熱意が形成されたことです。この経験は文部科学省の許認可に係る経験として多くの職員が共有できるものであります。次に我々は医学部教員以外の教育経験を持つ教員とともに働く環境を得ることができました。狭義に医学の実践と考えられる医療は、広義には人の営む全ての事項と密接に結びついています。従って教育者は不断の努力と社会適応の柔軟性が要求される立場にあります。看護学部の教員と医学部教員の交流は本学の教育姿勢に大きな影響を与えること、それが両学部の学生に新しい医療教育として還元される可能性を秘めています。大阪医科大学が教育維新を実現する時空間に足を進めたと考えています。

本学教育の近未来を表現するフレーズとして「医看融合」が語られています。私は医療の中心は飽くまで「病める人」と考えています。現実的には病人は医療を受ける立場で、医療を提供する側に、医師や看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、作業療法士など実に多くの専門家が存在します。これらの専門領域の有機的なネットワークは、一步踏み込んで観察すると、病人にとって望ましい医療を実現する為に、医療の提供主体者が変わることであります。看護師や薬剤師にはその職業倫理と能力に応じて、医療提供の主体者として「病める人」と向き合うことが要求される時代が到来したと考えています。「医看融合」は単なるチーム医療を表現するものでなく、大阪医科大学の新しい教育理念として今後検討され具体的に教育カリキュラムに反映されるものであります。

4月に向かって多くの共同作業が行われています。看護学部の推薦入試面接には多くの医学部教授が参加されました。医学部入試とは異なる「新鮮さ」が話題になりました。看護学部開設準備室の教授は医学部入試に積極的に協力をされています。医学部教授会ではこれら教授のオブザーバー出席を求め、看護学部教育（看護基礎）での医師教員が果たす役割について理解を深めようとしています。このような努力は将来に渡って両学部が自立的に協力的に運営される姿を示していると考えています。

一方で、大阪医科大学は医学部入学者110人体制導入による教員負担の増加、附属病院における両学部教育分担の問題や学生の福利厚生施設、大学院の充実、看護専門学校の廃校など実に多くの課題を抱えています。徹底した情報開示と教職員の努力で未経験ゾーンに進む覚悟でいますので、どうぞ積極的にご意見を頂きたいと思っております。

看護学部設置準備室主催 看護学部設置記念講演会 開催



平成21年11月13日(金)、青山学院大学・青山学院女子短期大学の野村祐之先生による講演「看護が創る日本の未来—米国での肝移植体験から—」が臨床第一講堂で17時15分～18時30分に開催されました。講演のプログラムは1.竹中学長挨拶、2.林看護学部開設準備室室長挨拶、3.野村祐之先生講演でした。

敬虔なクリスチャンである野村先生は、「人間は、『こころ (sprit)、知性 (mind)、身体 (body)』の3つを兼ね備えているので、その3つを支援することが看護職者として重要である」と米国での留学体験や療養体験を交えてお話されました。その中で、留学中に、経済学、看護学、医学など様々な学問を専攻している学生と「トリアージ」のテーマでディスカッションする授業があり、専門分野が異なるといういろんな考え方があることを知ったことが大変面白かったといわれていました。他職種との協働が推進されているわれわれ看護職者にとっても興味深いお話でした。最後に、われわれ看護職者の活躍があつてこそ、医療の発展があると看護職者に大きな期待を寄せているとエールを送っていただきました。当日は、学長、病院長、看護部長、看護学校長、看護師、看護専門学校の学生他200名以上の参加者がありました。(看護学部開設準備室)

広報・入試センター主催 看護学部設置記念講演会 開催



平成21年11月29日(日)、13時より看護専門学校講堂で、看護学部開設記念講演を開催いたしました。プログラムは【第一部】1.國澤理事長挨拶、2.竹中学長挨拶、3.田中看護学部開設準備室副室長「本学看護教育—医看融合教育を目指して—」、4.林看護学部開設準備室室長「看護教育の未来を語る」【第二部】1.大槻広報・入試センター長「一般入学試験概要説明」、2.広報・入試センター野口淑「一般入学試験対策」でした。

第一部では、國澤理事長から本学の外部評価について、竹中学長からは、医学部と看護学部が垣根を越えてお互いを尊重し新しい医学医療の情報を発信し、良質の医療人を養成することが本学の使命であると話されました。看護学部開設準備室からは、人間に関わる様々なテーマを医学と看護学の連携を基盤に、それぞれの専門性を尊重しつつ、医学と看護学を融合させた患者中心の実践に向けた医看融合教育について、および高度な看護専門職業人の養成、教育者の養成、看護学発展のための研究者養成について講演をいたしました。第二部では、大槻広報・入試センター長から入試概要について、引き続き広報・入試センターから入試対策について説明をいたしました。当日は、入試間近にもかかわらず、高校教師、高校生、保護者等173名の参加がありました。講演を熱心に聞いてくださる参加者の様子から、われわれも素晴らしい看護学部を作らなければと気持ちを新たにいたしました。

(看護学部開設準備室)

出張報告

第29回 国内医科大学視察と討論の会

趣 旨 医学教育に関する調査、研究および資料の収集を行い、その成果を医学教育機関に提供することを目的として、毎年日本国内の医学部1校を全国の教員が視察し、討論を行う。

主 催 財団法人 医学教育振興財団

期 日 平成21年9月17日（木）、18日（金）

場 所 日本医科大学医学部 教育棟

上記の会に出席されました放射線医学教室・鳴海善文教授、リハビリテーション医学教室・佐浦隆一教授の報告書をここに掲載致します。（学長 竹中 洋）



■第29回「国内医科大学視察と討論の会」に参加して

総合医学講座 放射線医学教室
教授 鳴海 善文

昨年9月17日・18日の両日にわたり行われました「国内医科大学視察と討論の会」に参加させて頂きました。日本医科大学における先進的な教育システムについての講演に引き続きグループ別に教授と学生との懇談と活発な議論が展開され、大阪医科大学における今後の医学教育について考える題材を数多く頂きました。

日本医科大学における学部教育への取り組みが数多く紹介されましたが、その中で特にユニークに感じられたのは、「臨床看護業務実習」です。入学時に高まる学生のモチベーションが低下しがちな2学期の夏休み明けに行われるという時期の設定の適切さもさることながら、コメディカルの立場を病院内で最初に体験することは、その後の病院実習や卒業研修時の「医療人」としての視線を形成する上で重要なことと思われます。一方、学生を指導、評価する看護師も、ボランティアながら日常業務を再確認することにより得るものがあるのではないかと感じました。

学生との懇談では、「基礎・臨床配属」のグループに参加しました。日本医科大学において「基礎配属」は必須ですが、おそらく個々の学生によって意識の高さが大きく異なると思われます。その中で意識の高い学生は「基礎配属」通して国際学会発表や英文論文まで行い、さらに基礎系に進む意向の学生が若干名いることは、確実な成果と思われます。一方、「基礎配属」への意識の比較的低い学生が、この制度を通してどのように指導、評価されているのか知りたいところです。

「臨床配属」は臨床系の16講座から41課題が提示され、その中から学生が自由に選択するという制度でしたが、学生の選択する科にやや偏りがある印象を受けました。成績評価に直接関係しない「臨床配属」を選択する学生の動機は多様でしたが、学生の休日に指導する臨床系教員の負担は多大なものがあると思われました。昨年2月に開催された「3次元CT/MRI研究会」で、たまたま日本医科大学の臨床配属学生の発表の座長をさせて頂く機会を得ましたが、発表は周到に準備されたもので、内容も学生の発表のレベルをはるかに超えており、学生と指導教員の熱意が良く分かりました。

「基礎配属」「臨床配属」ともに、将来「医学研究者」としてのみでなく、「リサーチ・マインドをもった臨床医」を目指すとしても有意義な制度と考えられます。学生のモチベーションの維持、教員のマンパワーの問題など克服されるべき問題は多々ありますが、今後の大阪医科大学における医学教育を考える上でおおいに参考にして頂きたいと考えています。

■第29回「国内医科大学視察と討論の会」に参加して

総合医学講座 リハビリテーション医学教室
教授 佐浦 隆一

今回、初めて「国内医科大学視察と討論の会」に参加しましたが、出席者名簿から日本全国の大学医

学部、医科大学のほぼ全施設が参加していることを知り、そのほとんどが教授職であること、また、複数の医科大学からは学長クラスの教員が出席していることに驚くとともに、今回の討論のテーマである「医学教育」に対して各大学が非常に高い関心を持っていることを実感した。

1. 組織の比較

項目	日本医科大学	大阪医科大学
組織	医学部長-教育推進室（教授会及び教育委員会の基本方針に基づき医学・医療教育の実務を所掌するセンター的役割を担う組織、推進室長・教授職） 学生部は別組織（学長直轄）	教育機構（教育機構長・教授職兼任）の下に教育センター（センター長・教授職兼任）と学生生活支援センター（センター長・教授職兼任）を配置
専任教官数	詳細不明	教育機構2名、教育センター1名 その他、兼任教員複数名
学是	克己殉公	未制定
建学の理念・精神	「済生救民」の実践	大阪高等医学専門学校の「建学の精神」を適宜具現化
Admission Policy	あり	未制定

2. 日本医科大学の教育カリキュラム「T/Each other Programs」

入学直後の医師としての価値観、死生観を考えさせる「特別プログラム」やNMS (Novel Medical Science)、臨床看護実習業務、BLS研修への参加、学生アドバイザー制度などは入学直後の「医師になるという」目標を見失いがちな新生生のモチベーションを維持し高めていくことができる仕組みであり、また、SGTやCSラボ、SP参加型PBLといった高学年での臨床医学教育は、教員の負担がかなり大きく教育する側としては大変な労力を要求されるが、学生側からするとほとんど教員とマンツーマンの感覚であり、マスプロ授業にはない能動的学習が可能となっている。

そして、この入学直後から臨床医学への間で座学中心となりがちな基礎医学への興味を失わせない仕組みとしての基礎配属、また、研究心を持った臨床医を育て大学院への進学を考慮に入れたカリキュラムである臨床配属がうまく機能している。

本学でのEarly exposureカリキュラムについては「早期体験実習」として2年生での病棟実習があるが、時期的には遅いと考えられ、日本医科大学と同様に入学直後からNMS、臨床看護実習業務、BLS研修への参加などもプログラムとして必要だと思う。

また、臨床配属は希望学生のみが休みを利用して臨床系の研究室に出入りするカリキュラムであるが、実際には学生にもかなりのモチベーションが要求される。しかし、このプログラムがうまくいっているのは、その前にある基礎配属で学生がしっかりと研究について取り組むことができるからだと思う。

本学でのBML(Basic Medical Learning)は期間が2週間と短く、プログラム内容も研究というよりはむしろ、クリニカルクラークシップと類似のものである教室も多く、研究を体験するという基礎配属の趣旨が徹底しているとはいいたい。今後、大いに改善の余地があると思われる。

一方、大学院教育については、臨床研修との兼ね合いもあり、特に基礎系大学院では学生数の確保が困難なのはどこの大学でも同じであると思うが、大学院生獲得のための学費負担の軽減化や初期研修医2年目に門戸を開く昼夜開講型大学院は本学でも検討に値する方策であると思う。

今回の日本医科大学の「T/Each other Programs」は、これまでの積み上げてきた教育カリキュラムを統合したものであり、付け焼き刃的な発想ですぐに真似ができるようなものではない。これを本学で導入するとしても、医学教育に対する大学としての立ち位置の明確化、教官側の負担増加に対するコンセンサスなど解決しなければならない問題も多い。

本学では臨床業務に取られる時間が多いので、学生教育が臨床、研究について3番目となり、BSLにして

出張報告

も結局はグループ単位での座学になってしまっていることが多い。学年担任はあるが、日本医科大学のように学生アドバイザー制度のように機能しているとはいえない。医学教育に対するインセンティブが弱いからではないだろうか。

しかし、大阪医科大学の本務である「強い医師を育む」ためには、卒前教育の改革、充実は避けて通れないところであり、「臨床業務が忙しいこと」を口実にしないで、教育により一層積極的に関わっていく必要があることを実感した。

現在、学生教育について臨床系教室は教育センターに一任し、FDについてもあまり協力的ではないと考える。今後、組織の改編、自己評価を利用した臨床系教員の教育に対する責任の明確化とインセンティブなどを含め大学全体としての教育に対する意識改革が必要だと思う。

最後に、本会への出席の機会を与えていただいた竹中洋学長に深謝致します。

平成21年度 医・歯・薬学教育研究推進会議

趣 旨 私立大学が設置する医・歯・薬学分野の学部及び大学院における教育研究の質的向上に資するべく、国の医・歯・薬学関係政策への提言や対外的な活動をはじめ、加盟大学の医・歯・薬学分野における相互連携、活性化した取り組みについて支援、推進することを目的とする。

主 催 社団法人日本私立大学連盟

期 日 平成21年12月2日（水）

場 所 コンファレンススクエア エムプラス（東京都千代田区丸の内）

上記の会に出席されました語学教室・中川一成准教授の報告書をここに掲載致します。（学長 竹中 洋）

■医・歯・薬学教育研究推進会議「プロフェッショナリズムを持つ医療人育成のための学部教育のあり方」に出席して

語学教室・准教授 中川 一成

日本私立大学連盟では平成19年度より医・歯・薬学分野の連携推進を目指して「医・歯・薬学教育研究推進会議」を開催している。平成21年度は「プロフェッショナリズムを持つ医療人育成のための学部教育のあり方」をテーマに、講演と事例発表が行われた（12月2日 於「コンファレンススクエア」東京都丸の内2-5-2三菱ビル）。以下、各講演ならびに事例発表について報告させていただきます。

1) 「セッション1：講演」

講演①「医療人プロフェッショナリズムをどのように定義するか」

天野隆弘先生（国際医療福祉大学教授、慶應義塾大学医学部客員教授）

要旨：medical professionalism は、「臨床能力」、「コミュニケーション技術」、「倫理的および法的理解」を土台とし、医師としての「卓越性」、豊かな「人間性」、「説明責任」、「利他主義」を柱としている。従来の医学教育では、このmedical professionalism の定義に見合った教育が、十分になされていなかった。慶応大学で実施した「Conjoint分析による医師構成要素の重みづけ評価プロジェクト」のアンケート調査によれば、患者とその家族は、医師に対して「治療能力」や「診断・検査能力」のみならず、「態度・コミュニケーション」、「説明と気配り」、「プロとしての自覚・倫理性」などを強く求めている。今後の医学教育においては、「ケースに基づいた検討（スモールグループ学習）」や「ベッドサイドでの実地臨床指導」の更なる充実をはかるとともに、卒前・卒後にわたる教育プログラムの構築を急がなければならない。また、新しい教育プログラムに対応するためには、指導医の意識改革も必要である。

講演②「医療人育成の最近の動向」

福田康一郎先生（社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構副理事長）

要旨：改訂版「モデル・コア・カリキュラム」の冒頭に、professionalism 育成の観点から、「医師、歯科医師として求められる基本的資質」が新たに明記された。この目標を達成するために、「診療参加型臨床実習」を充実させることが、今後の医学教育の課題である。具体的には、臨床実習における到達目標と評価基準を明確化し、学生に対して技能・態度にかかわる学習評価項目を明示しなければならない。学習成果を「段階的・体系的」に蓄積・記録して評価と指導に活かすための方策が必要である。シミュレーター機器の有効利用やAdvanced OSCE の活用も重要である。卒前・卒後の教育を一貫して見通した教育プログラムを構築しなければならない。

講演③「医療を提供する側が考えるプロフェッショナルな医療人とは」

矢崎義雄先生（独立行政法人国立病院機構理事長）

要旨：国民は、従来のパターンリズム的医療から患者側の価値観を反映させた医療へと、医療評価のパラダイムシフトを求めている。医師の不足や偏在等、現行医療体制が抱える構造的問題は深刻であるが、医療評価のパラダイムシフトへの社会的要請に応えるためにも、医学教育改革は避けて通ることのできない課題である。医療倫理の確立、医療安全の確保、高度な専門性と総合性の融合を目指す教育を実践するとともに、地域社会の要望に応えうる教育・診療体制を確立しなければならない。クリニカル・リサーチ能力を高めるための教育実践も必要である。

2) 「セッション2：事例発表」

このセッションでは、医・歯・薬の各分野からそれぞれ1名の先生が発表された。以下では医学教育に関する事例発表について報告します。

「患者主役の講義から『患者と作る医学の教科書』編纂への道程」

酒巻哲夫先生（群馬大学医学部附属病院医療情報部教授）

要旨：群馬大学では、一年次の初期医学教育に患者や市民が参加する「医療の仕組みと情報」という科目を開設している。講義では患者に講師を依頼する。学生は、事前に提示された患者のプロフィールをもとに学習した内容を、レポートにまとめて講義前に提出する。患者講師の講義（経験にもとづく内容）を聴講した後で、患者講師も参加してスモール・グループ討論を行い、各自レポートを提出する。レポートの評価には患者講師も参加している。この科目は市民公開講座になっており、希望者は受講できる（有料）。

成果としては、患者や市民の声を直に聴くことによって、授業態度やレポートの内容が改善された。この経験を活かし、医師のみならず医療従事者や患者を作成者に加えた教科書『患者と作る医学の教科書』（日経研出版 2009年）を出版した。

3) 「全体討議」

全体討議では、教育実践の評価に関して、教員や学生の評価のみならず、社会的評価や看護師など医療従事者の評価をもっと考慮に入れるべきであるという意見があり、大方の賛同を得ていた。学生のコミュニケーション能力や常識の欠如が深刻であるという指摘もあった。臨床教育におけるポート・フォリオの活用に関する必要性についても、参加者の大半が同意していたように思われる。

国家試験とOSCE/CBT の関係について、基礎医学系の知識はCBT で試験しているのであるから、国家試験は臨床実習で得た能力を測るものに変えていくべきであるという意見があった。さらに大学院制度に関して、優秀な学生のために、希望者には医師免許をとる前に大学院で学位を取得できるような制度改革が必要との意見があった。

以上、簡単ですが報告とさせていただきます。最後になりましたが、会議への出席を助めていただきました学長先生や、関係各位にお礼申し上げます。



受賞等について

受賞等について

32nd Annual CTRC-AACR San Antonio Breast Cancer Symposium
Avon Foundation-AACR International Scholar-in-Training Grant
一般・乳腺・内分泌外科 田中 寛先生（臨床研修指導医）

2009年12月 アメリカ合衆国 テキサス州 サンアントニオで開催されました 32nd Annual CTRC-AACR San Antonio Breast Cancer Symposium において、Avon Foundation-AACR International Scholar-in-Training Grantとして賞金\$2,000を受賞されました。

演題：『Tau Expression and Efficacy of Paclitaxel Treatment in Metastatic Breast Cancer』



第47回日本癌治療学会学術集会 優秀演題賞受賞
泌尿生殖・発達医学講座 泌尿器科学教室 助教 稲元 輝生先生

平成21年10月22日(木)～24日(土)に、横浜市・パシフィコ横浜にて開催された第47回日本癌治療学会学術集会において、優秀演題賞を受賞されました。

演題：『核内転写因子の細胞質へのミス・ローカライゼーションによる膀胱癌患者の予後予測』



第47回日本癌治療学会学術集会 優秀演題賞受賞
泌尿生殖・発達医学講座 泌尿器科学教室 准教授 東 治人先生

平成21年10月22日(木)～24日(土)に、横浜市・パシフィコ横浜にて開催された第47回日本癌治療学会学術集会において、優秀演題賞を受賞されました。

演題：『局所浸潤性膀胱癌：血液透析併用－血流閉塞抗癌剤動注（BOAI）＋放射線療法の治療効果』



❖受賞されました東准教授のコメントをご紹介します。

この度は、第47回日本癌治療学会学術集会において、名誉ある優秀演題賞を頂き、まことに光栄に存じます。また、本研究を御指導いただいた、多くの共同研究者の先生方に心から感謝申し上げます。

局所浸潤性膀胱癌に対する、膀胱温存療法、“OMC-regimen”は、血流閉塞バルーン付動脈注入カテーテルによる抗癌剤の膀胱動脈選択的注入と血液透析を併用し膀胱灌流後の抗癌剤を除去することによって、全身に副作用を及ぼすことなく、膀胱および、周囲組織に極めて高濃度のCDDPを投与する“新規膀胱温存療法”であり、こ

れまでに70例以上の患者様に施行し、85%以上にclinical responseを認める（特に組織型が尿路上皮癌である限局癌症例では90%以上の患者様を手術することなしに根治に誘導している）画期的な治療法です。膀胱癌は、元来高齢者に多く、通常年齢やPSから根治不可能な症例においても、根治療法を前提とした治療を考慮することが可能にする意味で、本治療法の臨床的意義は非常に大きいと思われます。今後は、今回の受賞を励みに、本治療法を全国的に広めつつ、少しでも多くの患者様、特に現在の標準治療では根治不可能な方々に根治療法を提供できるよう、尽力したいと思います。

泌尿器科学教室 東 治人

平成21年度 大阪医科大学附属病院診療等功績顕彰（藤田賞）の表彰

平成21年度の藤田賞の授賞が、麻醉科学教室・土居ゆみ講師に決定し、その授賞式が平成22年2月3日(水)の診療科長会にて行われました。

科長会にご出席の方々からの祝福の中、土居先生に表彰状と金一封が授与されました。

平成22年度の顕彰は、本年秋頃に募集を予定しております。



平成21年度（第1回）田中忠彌国際交流基金授与式

田中忠彌国際交流基金は、本学の研究水準の向上と強化を図るため若手の教員他の海外研究に対する助成金交付を目的とした基金で、本年度から設立されました。

日時 平成22年2月5日（金）14：00～

場所 理事長室

授賞者 長谷川 彰彦先生（整形外科学 大学院生）



平成21年度 第Ⅱ回 学位記授与式

日 時： 平成21年11月25日（水）午後3時～
 場 所： 別館1階 講堂（階段教室）及び 3階大学院多目的講義室
 大学院医学研究科修了者（甲） … 3名
 論文提出者（乙） …………… 4名



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第844号	田村 滋規	Expression and distribution of GABAergic system in rat knee joint synovial membrane (ラット膝関節滑膜におけるGABAシステムの発現と分布)
甲第845号	土井 仁志	Panaxanthone isolated from pericarp of <i>Garcinia mangostana</i> L. suppresses tumor growth and metastasis of a mouse model of mammary cancer (<i>Garcinia mangostana</i> L.の果皮より抽出されたパナキサントンはマウス乳癌細胞の腫瘍増殖と転移を抑制する)
甲第846号	三倉 文子	Association of <i>Tenascin-W</i> Expression with Mineralization in Mouse Calvarial Development (マウス頭蓋冠の発育における <i>Tenascin-W</i> の発現と石灰化との関連)
乙第1072号	小谷 卓矢	Early Intervention with Corticosteroids and Cyclosporin A and 2-hour Postdose Blood Concentration Monitoring Improves the Prognosis of Acute/Subacute Interstitial Pneumonia in Dermatomyositis (ステロイド剤とシクロスポリンAの併用療法の早期導入及び投与2時間後の血中濃度による用量調節は皮膚筋炎に合併する急性/亜急性間質性肺炎の予後を改善させる)

学位記授与式 研究助成金等について

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第1073号	山田 朗	Anthropometric Study of Ear Position and its Clinical Application to the Total External Ear Reconstruction (耳介位置の人類学的計測研究およびその全耳介再建術への適用)
乙第1074号	長谷川 昌史	Hypothermic inhibition of apoptotic pathways for combined neurotoxicity of iron and ascorbic acid in differentiated PC12 cells: Reduction of oxidative stress and maintenance of the glutathione redox state (分化PC12細胞における鉄アスコルビン酸神経毒性に対する低温によるアポトーシス経路抑制効果：酸化ストレス減少とグルタチオン酸化還元状態の調整)
乙第1075号	柏木 充	Parietal dysfunction in developmental coordination disorder: a functional MRI study (発達性協調運動障害における頭頂葉の機能低下：機能的MRI研究)

研究助成金等について

■平成21年度調査研究助成金 [鈴木謙三記念財団法人医科学応用研究財団]

研 究 課 題 名	氏名(所属名・職名)	助成金額
局所浸潤性膀胱癌に対する、「血流閉塞バルーン付カテーテルを用いた抗癌剤動注 (BOAI) + 血液透析 (膀胱灌流後抗癌剤除去)、および放射線照射併用療法」の治療効果	東 治人 (泌尿器科学・准教授)	100万円

■平成21年度 公益信託タニタ健康体重基金 研究助成 [公益信託タニタ健康体重基金]

研 究 課 題 名	氏名(所属名・職名)	助成金額
高齢者の虚弱に至る体組成変化の解明 - 特に脂肪に注目し、高齢期における肥満対策の意義について -	谷本 芳美 (衛生学・公衆衛生学・助教)	50万円

■平成21年度第30回一般研究助成金 [財団法人がん集学的治療研究財団]

研 究 課 題 名	氏名(所属名・職名)	助成金額
浸潤性膀胱癌に対する「血流閉塞バルーン付カテーテルによる抗癌剤動注 (BOAI) + 血液透析 (膀胱灌流後抗癌剤除去)、および放射線療法：“OMC-regimen”」の治療効果	東 治人 (泌尿器科学・准教授)	100万円

○研究協力課から処理 (申請・機関承認等) しました公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。

研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

中山国際医学医療交流センター

■アルバート・アインシュタイン・メディカルセンター研修医の本学での短期研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成21年10月1日より2週間にわたり米国フィラデルフィアのアルバート・アインシュタイン・メディカルセンター救急医療部研修医 Kathryn Stahl医師が本学および三島救命救急センター、北摂総合病院で研修されました。

研修初日はオリエンテーション、図書館など本学紹介ののち、花房病院長による病院案内、神谷看護学校長および西山副看護学校長による看護専門学校案内が行われました。

2日目より本学救急医療部（森田教授）、三島救命救急センター（秋元所長）、北摂総合病院（木野院長）で研修されましたが、日本の救急医療の現状や米国の制度やシステムとの違いを体験し、理解を深めることが出来たことを大変感謝されての帰国でした。

研修を通じてご指導いただいた諸先生方に改めて感謝申し上げます。



7A13にて：左より河野教授、花房病院長、Dr.Kathryn Stahl、Mr.Peyton Ferrier（Stahl研修医ご主人）、由藤師長



■ハワイ大学医学部ワークショップの本学での開催について

教育センター 宮本 学

ハワイ大学医学部・大阪医科大学教育センター・中山国際医学医療交流センターとの共同開催で、Enhancing the Effectiveness of Problem-Based Learning (PBL) = 問題解決型学習 (PBL) の効果をも高める方法 = のテーマで“ハワイ大学医学部ワークショップ in 関西”が、平成21年10月23日(金)～25日(日)大阪医科大学新講義実習棟において行われました。

今回のワークショップは、ハワイ大学医学部 (University of Hawaii, John A. Burns School of Medicine) の医学教育室によって東アジア地域医学教育プログラムの一環として催されました。日本におけるカリキュラムの中で問題解決型学習 (PBL) の効果をより高めたいと願っている医学教育者のためにデザインされたものです。



WS開催時 竹中学長によるご挨拶



Jill Omori先生による学生へのレクチャーの様子

ワークショップ指導教員は、ハワイ大学医学部副医学部長 Richard Kasuya先生、同医学教育室教育室所長 Damon Sakai先生、同家庭医学准教授 Jill Omori先生、佐賀大学医学部総合内科教授 小泉俊三先生、同地域医療准教授 小田康友先生です。

初日は、中山国際医学医療交流センター長 河野公一先生、病院長 花房俊昭先生、看護学校長 神谷美佐子先生、副看護学校長 西山裕子先生により学内・院内・看護学校案内の後、ウェルカムパーティーが催されました。

ワークショップは学長 竹中洋先生からのご挨拶で始まり、教員の参加は、本学13名、琉球大学、順天堂大学、北里大学など外部から11名の計24名でした。同時に同じ日程で開催された学生のためのPBLワークショップは、京大、奈良医大、兵庫医大、関西医大、佐賀医大、慶応大・医などから51名の多数の参加となりました。学生のためのワークショップでは、今期ハワイ大学交換留学本学学生7名が、チュータおよびタスクホースを務め大好評を博しました。

中山国際医学医療交流センター長 河野公一先生から、Kasuya先生にHonorary Professor、Sakai先生とOmori先生にはVisiting Professorの称号の授与がおこなわれ、ハワイ大学医学部と本学のより親密な関係が発展することを誓い合いました。



Damon Sakai先生による教員向けWSの様子



教員向けWS終了後集合写真



■ハワイ大学医学部シムティキ シミュレーションセンター所長・主任の本学での講演について

教育センター 宮本 学

本学教育センター・卒後臨床研修センター・キャリア形成支援センター・中山国際医学医療交流センターの共同開催で、ハワイ大学医学部 SimTiki Simulation Centerからシムティキ シミュレーションセンター所長 Benjamin W.Berg先生とシミュレーションスペシャリスト主任 Kristine Hara先生を迎えての講演会を平成21年11月23日(月)午後4:30~7:00 講義実習棟2階第1講義室にて開催しました。

SimTiki Simulation Centerは、ハイテクノロジー・シミュレータと最新の教育理論に基づき運営されている世界のトップレベルのシミュレーションセンターであります。日本の医科大学にとっても、シミュレーションを用いた教育は、重要課題となっており、本学でもシミュレーションセンターが開設されました。この講演は、教育センターと中山国際医学医療交流センターが培ってきた大阪医科大学とハワイ大学との密接な連携によって実現しました。中山国際医学医療交流センター長 河野公一先生が、Berg先生とHara先生を図書館、歴史資料館など学内と高槻近郊を案内しました。そして、Berg先生にVisiting Professorの称号の授与が行われました。また、本学シミュレーションセンター教員と参加学生

中山国際医学医療交流センター

にSimBaby（シミュレータ）を用いた特別デモンストレーションを行いました。

講演には、祭日にもかかわらず本学の教員、学生、佐賀医科大学卒業研修センター、大阪市立大学、藤田保健衛生大学、神戸学院大学など外部からの参加があり盛会となりました。教育センター・卒業臨床研修センター・キャリア形成支援センター・中山国際医学医療交流センターが、シミュレーションに基づく医学教育のスタートで協力し合うことができたことは、大きな第一歩になると思います。



歴史資料館にて：左より Dr.Benjamin W.Berg、Dr. Kristine Hara、宮本准教授、河野教授



■アムール医科アカデミーカンファレンス参加について

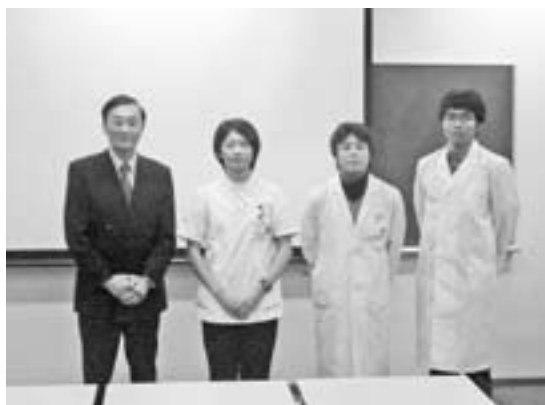
中山国際医学医療交流センター 河野 公一

平成21年12月21日、交流協定を締結しているロシア・アムール医科アカデミーのカンファレンス（“19th Scientific Student’s Conference in Foreign Languages”）に本学よりの参加依頼があり、本学学生3名（4年生大矢希さん、中野和俊さん、5年生福本真延さん）らによるパワーポイントを使った3つのプレゼンを行いました。

今回は“Presentation of Kyoto city”“Have you tried Japanese Alcohol?”“The seasons in Osaka”といったテーマでDVD録画した学生のプレゼンデータを現地で流してもらい、大きな反響を得ました。距離を越え、両大学の理解を更に深めるよい機会となり、今後もインターネットを用いた、カンファレンス、学生交流を深めていくことを両者で確認しました。



アムール医科アカデミーにて



左より河野教授、5年生福本真延さん、4年生中野和俊さん、4年生大矢希さん

■臨床研究教育研修会報告

日 時：平成21年12月8日（火）17：30～19：00

場 所：臨床第Ⅰ講堂

演 題：「臨床研究の進め方」～プロトコール作成の基礎知識と実施のノウハウ～

講 師：京都大学医学部附属病院探索医療センター検証部 新美 三由紀 先生

医学の進歩には人を対象とする試験（研究）が最終的に必要となりますが、参加される被験者の権利・利益が何よりも優先されなければなりません。本年4月、完全施行された「臨床研究に関する倫理指針」改訂版において、「研究者等は臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識について講習その他必要な教育を受けなければならない」が明記されました。これに従い、臨床研究に携わるすべての医療従事者に対する集合研修として教育研修会を計画致しました。



研修会風景

研修会は林臨床治験センター長の司会のもと、米田大学院委員会委員長開会挨拶の後に

新美先生が講演され、「臨床研究とは何か」、「研究実施計画書とは何か」、「計画書作成の一般的な注意事項」、「臨床試験実施計画書の書き方」等について、スライドを用いてわかりやすく説明されました。

質疑応答の後、最後に閉会挨拶として米田大学院委員会委員長より同先生への謝辞が述べられました。医師をはじめ、看護師、技術員、事務職員の方など約130名の参加を得て、第1回研修会は盛会のうちに終了しました。

次回は下記の日程で開催致しますので、奮ってご参加ください。

日 時：平成22年3月8日（月）17：30～19：00

場 所：臨床第Ⅰ講堂

講 演：「臨床試験におけるインフォームド・コンセントの法的効力と限界」

関西大学法学部 教授 葛原 力三 先生



新美先生



米田大学院委員会委員長



林臨床治験センター長

医学会秋季学術講演会

平成21年度 医学会秋季学術講演会

日 時：平成21年11月11日（水）13時30分～15時20分

場 所：臨床第一講堂

[鈎奨学基金研究助成受賞講演]

『妊娠子宮筋収縮におけるプロゲステロン

受容体 isoformの役割

～陣痛発来メカニズムを探る～』

大阪医科大学 産婦人科学教室

助教 田辺 晃子 先生



[特別講演]

『病院総合医の役割』

大阪医科大学内科学 総合診療科

専門教授 浮村 聡 先生



[特別講演]

『卒前医学・卒後臨床一貫教育の重要性とシミュレーション教育の役割』

大阪医科大学キャリア形成支援センター

専門教授 近藤 敬一郎 先生



学長室にて

前列左から：近藤教授、

竹中学長、浮村教授

後列左から：樋口教授、

花房教授

平成21年度 大阪医科大学附属病院連携病院長会総会



平成21年11月19日(木) 15:00~16:45
 ホテルグランヴィア大阪 20階「鳳凰」の間
 『大学改革の方向性』
 - 地域連携の必要性 -

学長 竹中 洋 先生

今回の特別講演は本学の竹中洋学長にお願いして
 標題の講演を行って頂きました。参加者は連携病院
 より82名、院内より39名、合計121名の先生方にご
 参加頂き開催いたしました。

演者の竹中先生は本学附属病院の病院長を2期4
 年務められ、平成21年6月1日に学長に就任されました。全教職員に対して掲げられた35(7項目)の
 マニフェストを実現するために多面的に活動をされ、既に実現をされたマニフェストも多数ありますが、
 今後も大阪医科大学の将来を見据えられながら、完遂に向けて鋭意努力されると信じております。

講演では地域医療提供体制における附属病院の位置付けを解説され、また大学病院としての地域医療
 との連携の必要性をKey wordsを交えてご講演されました。そして大阪医科大学としての根幹である医
 師養成の試みについても、現在進行中のプログラムについて熱く語られました。本総会は院外の参加者
 の先生方の殆どが病院長もしくは経営トップという立場であり、非常に関心の高い内容であったと思わ
 れます。引き続き開催された懇親会の席上でも、素晴らしい講演会であったという意見・感想が多く聞
 かれました。

淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラムの
説明会並びに特別記念講演会開催

京都大学大学院医学研究科 医学教育学教授 平出敦先生

平成21年12月17日(木)午後5時から新講義実習棟
 P101教室において、連携大学の先生をはじめ大阪
 府や高槻市の関係者、本学の関連部門から約80名
 の方々のご出席をいただき、文部科学省補助事業の
 大学教育充実のための戦略的・大学連携支援プロ
 グラムの採択、並びにメディカルトレーニングサポ
 ートセンターの設立を記念して『淀川リバーサイ
 ズメディカルトレーニングサポートプログラム』の
 説明会並びに特別記念講演会を開催しました。

最初に近藤敬一郎キャリア形成支援センター長
 より、本プロジェクトの採択の経緯やプログラムに
 ついての説明があり、女性医師、看護師、コメディ
 カルの職場復帰支援活動や本学の地域医療に対する

取り組み、設立したメディカルトレーニングサポートセンターの内容が紹介されました。

引き続き、特別記念講演では医学教育の第一人者としてご高名な京都大学大学院医学研究科 医学教
 育学教授の平出敦先生から『医師教育におけるシミュレーション教育』を演題として、わが国の医療教
 育の現状から医療安全としてシミュレーション教育はツールとして不可欠であること等、今後の取り
 組みに大変に参考になる医学教育のあり方に関するお話をいただきました。

講演終了後の質疑応答では医学教育に対する活発な意見交換等があり、出席者の皆様方の医師養成に
 対する関心の深さを感じました。

(収録DVDを貸出しています。申込先はキャリア形成支援センター栗山・畠中まで。)

平成21年度大学改革推進等補助金「高度周産期医療人養成推進プログラム」 の説明会ならびに特別講演会の開催



北島 博之 先生

本プログラムは、「胎児から新生児までの安全・安心な医療ネットワークの形成」を副題として採択されました。学生（医学生、看護学生）から初期臨床研修医、レジデントを対象にNICUにおいて新生児／未熟児の蘇生・管理を学べる環境を整備し、教育を行って周産期医療を充実させることを目的としています。このプログラムの採択を機会に大阪府立母子保健総合医療センター新生児科の北島博之先生に記念講演をしていただきました。「あたたかな出産体験と母乳育児ではぐくまれる親子の絆～周産期からの虐待予防をめざして～」と題された講演は2時間に及ぶものでありましたが、内容はとてもすばらしく聴衆はじっと聞き入っていました。

本プログラムは、保育士を拡充して院内保育所を充実させ、働きやすく離職防止や復職支援をするだけでなく、教育内容を充実させることを目的とするもので、若手の医師、看護師、助産師、学生からの参加を期待するものです。

事業推進者、周産期センター副センター長 玉井 浩

消防避難訓練実施



平成21年11月18日（水）、26日（木）午後1時30分から、61病棟（参加者30名）、NICU・ベビールーム（参加者20名）において、それぞれ消防避難訓練が実施され、責任番を中心に全員が落ち着いて行動し、連絡通報、避難誘導が行われました。

平成21年度実験動物慰霊祭



日 時：平成21年12月5日（土）13：00～
場 所：大阪医科大学 講義実習棟 第1講義室

実験動物センター長・朝日教授の祭文奉読に続き、医学医療に貢献した数多くの実験動物の御霊に謝意を表し、花房病院長をはじめとして、参列者全員が焼香を行いました。

第2回 病院ボランティア研修会



第2回病院ボランティア研修会が下記のとおり開催され、教職員79名が参加致しました。

日時：平成21年12月10日（木） 17：00～18：00
会場：臨床第1講堂
テーマ：『ボランティアについて』
講師：社会福祉法人 高槻市社会福祉協議会
高槻市ボランティア・市民活動センター
金子芳恵 先生 <http://www.tacityvc.com/>

平成22年 年賀交歓会



日時：平成22年1月4日（月）13：00～
場所：大阪医科大学 大学管理棟 第9会議室

理事長、学長、病院長出席のもと、元学長、名誉教授にもご出席賜り、100余名の教職員の参加のもと、恒例の年賀交換会が開催されました。



クリスマスコンサート

平成21年12月18日（金）17：30～18：30

校舎を活用して地域との積極的関わりと、学生のボランティア精神を高める目的で、看護学校学生教職員全員参加での学生自治会主催のクリスマスコンサートも4回目を迎えました。

先駆けて11月末日には玄関ホールに高さ3mのクリスマスツリーを飾りつけ、北側の吹き抜けガラスにはカラフルなクリスマスシールが貼られました。道路に面した玄関エントランスにもイルミネーションを飾り、点灯式を行ないました。BGMにはクリスマスミュージックを流し、看護学校はクリスマス一色となりました。本番に向けて吹奏楽部や学生有志による合唱、ダンスなど、忙しい学習の合間に熱のこもった練習を重ね当日を迎えました。

地域の方々、特に多くのちびっ子たちにお越しいただき、ホールは熱気でいっぱいになりました。学生手作りの心ばかりの小さなプレゼントを手渡し、ラストにはお子さんたちにステージに上がってもらって“あわてんぼうのサンタクロース”の大合唱、帰り際にはサンタとトナカイに扮した学生の大奮闘に小さなお子さんたちからの握手と記念撮影となり、楽しい賑やかなひとときを持つことができました。

ご参加いただいたの方々、本当にありがとうございました。



平成21年度 市民公開講座

■第5回

平成21年11月7日（土） 14時～ 臨床第一講堂
『新しい心肺蘇生を学びましょう』 ※実技有り
救急医療部 教授 森田 大 / 医局員

『緊急時に使用するお薬
～狭心症に使用するお薬について～』
附属病院薬剤部 畑 武生

『自宅で出来る緊急時の対応』
附属病院看護部 救急外来看護主任 濱田 恵美



■第6回

平成21年12月19日（土） 14時～ 臨床第一講堂
『リンパ浮腫って何?』
形成外科 講師 中井 國博

『リンパ浮腫治療に関連するお薬
～抗菌薬について～』
附属病院薬剤部 山田 智之

『日常生活におけるリンパ浮腫の予防とケア』
附属病院看護部 看護師 坂田 愛美



■第7回

平成22年1月16日（土） 14時～ 臨床第一講堂
『新しいお薬をあなたへ～「治験」ってなあに?～』
臨床治験センター長 林 哲也

『「治験に参加しませんか?」と言われたら』
臨床治験センター 認定CRC 吉川 知沙

『治験コーディネーター（CRC）の役割
～CRCがお手伝い出来ること～』
臨床治験センター 認定CRC 田邊 由美



■市内5大学リレー市民講座

～住みたいまち高槻をめざして～

日 時：平成22年1月23日（土）12時30分～17時

場 所：高槻市立総合市民交流センター 8階イベントホール

高槻市と市内の5大学が連携し、高槻市のまちづくりにおける都市文化の振興やまちの活性化を図るために、各大学の特色や専門分野を活かした講演を行っています。

大 学	講師・講演テーマ
平安女学院大学	学長 山岡 景一郎 氏 『子どもは勉強・お母さんは起業』
京 都 大 学	農学研究科 附属農場教授 北島 宣 氏 『京大農場における地産地消の試み』
関 西 大 学	商学部教授 安部 誠治 氏 『高槻ミュージックキャンパスの開設と高槻市への地域貢献』
大阪薬科大学	薬学部教授 天野 富美夫 氏 『食中毒、今、ここが危ない！』
大阪医科大学	附属病院長 花房 俊昭 氏 『元気で長生きする秘訣』



※ <http://www.city.takatsuki.osaka.jp/db/kurasu/db4-daigaku.html>

平成22年度 市民公開講座開催予定

回数	開催日	演 題	講師 (医師)	演 題	講師 (薬剤師)
第1回	4月17日(土)	脳卒中にならないためになった時のために	脳神経外科 講師 田村 陽史	脳卒中を予防する薬	坂井 美佳
第2回	5月15日(土)	増えている前立腺がん～前立腺がん検診の大切さ～	泌尿器科 助教 水谷 陽一	前立腺がんの薬物療法(抗男性ホルモン剤)	片岡 憲昭
第3回	6月19日(土)	ペインクリニックでの痛みの治療	麻酔科 講師 西村 渉	ペインクリニックで使用される薬の正しい理解	和田 有可里
第4回	9月4日(土)	日本人に多い目の病気 緑内障とは？	眼科 講師 杉山 哲也	緑内障に影響を及ぼすお薬について	高嶋 美季
第5回	11月6日(土)	他人に言えない悩み～頻尿と性器脱～	産婦人科 講師(准) 田辺 晃子	頻尿の治療薬	平 祥子
第6回	12月18日(土)	肝臓病の診断と治療	内科学Ⅱ 講師 福田 彰	インターフェロンについて	牧 智恵子
第7回	平成23年 1月15日(土)	慢性肝臓病(CKD)を知ろう	血液浄化センター センター長 井上 徹	お薬と腎臓の話	牧野 順子

平成22年度 高槻市大学交流センター事業 『市民講座』 開催予定

開 催 日 時	所 属	演 者
10月7日(木) 16:30~18:00	心理学	教 授 千原 精志郎
10月14日(木) 16:30~18:00	看護学部	教 授 林 優子 教 授 田中 克子
10月21日(木) 16:30~18:00	看護部	(未定)

※ 演題については、未定です。

■本院看護師による静脈注射実施に向けた取り組み

看護部 静脈注射ワーキンググループ 看護師長 松本 加奈

看護師による静脈注射の実施については、1) 薬剤の血管注入により、身体に及ぼす影響が甚大であること、2) 技術的に困難であるとの理由により、看護師等の業務範囲を超えるものという行政解釈が示されてきました。しかし、平成14年5月、厚生労働省は少子高齢化の進展、医療技術の進歩、国民の意識の変化、在宅医療の普及、看護教育水準の向上などに対応した「新たな看護のあり方に関する検討会」を設置し、平成14年9月、看護師による静脈注射の実施は、「業務の範囲を超えるもの」から「診療の補助行為の範疇として取り扱うもの」と通知し、行政解釈が変更されました。

これを受け、日本看護協会は「静脈注射の実施に関する指針」を平成15年に作成しました。その中で、行政解釈変更について「看護師が静脈注射を行っても違法ではない」という意味であり、「看護師が行わなければならない」という意味ではない、と説明しています。

看護部では、行政解釈変更を受け、静脈注射の実施に関するワーキンググループを立ち上げ、平成15年7月に本院看護部としての見解をまとめ、「基本的には看護師の“臨床看護実践能力”に応じて実施するものとし、業務拡大に伴い人員確保なども検討しながら、当面は現状維持（医師が行う）とする」としていました。

その後の社会背景や医療環境の変化から、平成19年12月厚生労働省は各都道府県知事宛に「医師及び医療関係職と事務職員等の間等での役割分担の推進について」通達し、“静脈注射に関して看護職員の積極的な活用を図り、患者中心の効率的な運用に努められたい”という内容が示されました。

このような社会背景に鑑み、平成20年1月、看護部では社会のニーズに応え、看護師の知識、技術の向上と専門性が発揮できる機会と捉え、看護師が静脈注射を実施していくことに方針を変更し、平成20年4月看護師長による静脈注射ワーキンググループを再編成し、薬剤部の協力も得ながら、平成22年度からの静脈注射実施に向け取り組んでいます。しかしながら、私立大学病院での看護師による静脈注射実施は3割にも満たないのが現状です。

本院看護部では、看護師配置基準「7対1看護」を早期に取得し、安全で質の高い看護の提供に努めています。それに伴い、毎年約120名もの新人看護師が採用され、経験年数3年未満の看護師が約3割を占めるという厳しい教育環境にあるのも現実問題になっています。また特定機能病院として良質で高度な先進的医療を行い、安全で質の高い医療、看護の提供が求められるなか、在院日数の短縮化、疾病構造の複雑化、患者の高齢化などから、看護業務の複雑化をきたしているのも現状です。そのなかで、いかに教育体制、実施基準などを整備し、責任をもって安全に患者さまに静脈注射を実施するかということが重要になります。

これらを考慮し、看護師による静脈注射はあくまでも医師の指示のもとに行う診療の補助業務であることを踏まえた上で、業務改善、人員配置、教育プログラムの立案など体制の整備と共に実践教育を行



い、看護部教育システムであるクリニカルラダーシステムにリンクした、認定を受けた看護師だけが静脈注射を実施できることとしました。実践教育においては、テルモメディカルプラネックスでの研修で基本的知識、技術の確認を行ったワーキンググループメンバーがインストラクターとしての役割を發揮し、本学メディカルトレーニングサポートセンターにて、キャリア開発支援センター長の近藤准教授の協力を得ながら、計画的にトレーニングを行っています。

今後は、院内で検討予定である指示に関するマニュアルを含め、静脈注射実施に関する施設内基準について、安全対策室とも連携を図りながら整備し、次年度実施に向けて取り組んでいきたいと思っております。今後も各職種の方々のご理解とご協力をお願い致します。

■阪神タイガース岩田投手小児病棟訪問

♪～ 岩田投手と子どもたちとの楽しい時間 ～

65病棟 本田 貴子



平成21年12月13日小児科病棟に、阪神タイガースの岩田稔投手が、入院中の子どもたちにエールを届けに来てくれました。

岩田投手は、I型糖尿病を抱えながら、プロの世界で活躍されています。

12月のはじめ頃から子どもたちは、岩田投手の訪問にドキドキ。ちょうど野球少年も入院中でしたので「質問すること考えたねん」「手紙書いたで～」と大喜び。院内学級では色紙を書いたり、プレゼントを作ったりワイワイと過ごしていました。

そして岩田投手の訪問の日がやってきました。子どもたちと当日、誰から質問をするか、誰からプレゼントを渡すか打ち合わせをすると、「タイミング分らんから目で合図してよ」「プレゼント一人で渡されへんから、一緒に渡して」などと緊張が伝わってきます。しかもお母さんを巻き込んでのイメージトレーニング。

いよいよ岩田投手の登場。始めは緊張していましたが、質問の時間になると「野球をされていて、病気がわかりどう思ったか、くじけそうになったことはないのか?」、家族の方からも「家族として、どんなサポートをして欲しいか」など、それぞれが聞きたいことを聞き、岩田投手も1つ1つに真剣に答えられます。

そして、質問タイムもあっというまに過ぎ、プレゼントを渡すときがきました。子どもたちは緊張しながらも、「がんばってください。ありがとうございました。」と言いながら、紙粘土で作った岩田モデルのグローブ、タイガースカラーのミサンガ、みんなで書いた色紙を渡しました。グローブを渡した時、岩田投手は「すげえ!」と、とても喜んでくれました。

その後は、プレイルームにこられなかった子たちのために個室を訪問してくださり、短い時間のなかお話しもしてくれました。

岩田投手が帰る時にはまた、ロビーまでみんな出てきて写真を撮り、名残惜しい雰囲気の中、エレベーターまで見送りました。子どもたちは「緊張した～」 「プレゼント使ってくれるかなあ」「すごい手が大きかったで」と話しは尽きませんでした。

子どもたちは疾患をもちながら、日々頑張っています。くじけそうになることもたくさんあると思います。今回の岩田投手への質問の中で、素直な思い



病院看護部

が聞けました。今回の岩田投手の訪問は子どもたちにとって、大きな力になったと思います。そして、岩田投手の頑張っている姿をテレビで見るたびまた、元気をもらう事だと思います。

このような機会を作って下さった、病院関係者の方、阪神球団の方に感謝致します。
ありがとうございました。

■小児病棟のクリスマス

65病棟 師長 浅井 明美



『クリスマス』それは子どもたちだけでなく大人にとってもワクワクするイベントです。

クリスマスの音楽が流れ出したら「今年はサンタさんにどんなプレゼントをお願いしよう」と考える子どもたち、その願いを叶えたいパパ・ママサンタ、みんなにとって楽しい季節です。小児病棟に入院している子どもたちやそのご家族も例外ではありません。このワクワクする季節と入院が重なり、病棟でクリスマスを過ごさなければならない子どもたちが多勢います。私たち小児病棟のスタッフは、入院している子どもたちやご家族にも、クリスマスの季節

を感じてワクワクして過ごしてもらいたいと願っています。

12月に入ったらクリスマスツリーを飾り、プレイルームの壁面も「サンタクロースとトナカイ」に変更しました（スタッフの手作りです）。入り口ドアのガラスもクリスマスバージョンにし、リースも飾りました。そして16日にクリスマス会を開きました。プレイルームを会場に設定し、催し物を計画します。今年は院内学級に通う子どもたちの手作り紙芝居、1年生スタッフからアンパンマンのペーパーシアターとベル演奏、他のスタッフたちの手話をまじえたクリスマスソングでした。「あわてんぼうのサンタクロース」の歌を合唱すると…小児科研修医が扮するサンタクロースとトナカイの登場です。サンタクロースが子どもたちの名前を呼んで一人一人にプレゼントを手渡します。大きな子は少し照れながら、小さな子はサンタとトナカイに少しビックリしながら、みんなとびきりいい笑顔でプレゼントを受けとり、サンタと写真を撮りました。

今年は、この他にも病院からのプレゼントがありました。病院入り口のイルミネーション点灯式の時、管理棟応接室を子どもたちに開放して下さり、みんなで楽しむことができました。子どもたちは応接室から見える大きな光るツリーや電車、バス、などに大喜びでした。そして、もう一つ、イルミネーションを見に行けない子どもたちのために、プレイルームに飾るイルミネーションをプレゼントしていただいたのです。毎晩チカチカ光るサンタと雪だるまのイルミネーションとクリスマスツリーと見ていると笑顔が増えます。

子どもたちの笑顔は私たちのパワーの源です。これからも、子どもたちのがんばりを笑顔に出来るように「愛と安心」のあふれる小児病棟の看護師たちは頑張ります！今年度の病院からの子どもたちへの心のこもった取り計らいに心より感謝いたします。ありがとうございました。



関西医科大学との共同ワークショップ開催

平成22年1月9日(土)・10日(日)ホテル阪急エキスポパークにおいて、医学生の学外実習及び臨床研修医の研修の指導者の充実を目的として、本学と関西医科大学が共同で医学教育指導医ワークショップを開催しました。

これは文部科学省補助事業「淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム」の事業の一環として開催するFDであり、関西医科大学の徳永力雄常務理事をディレクター、名古屋大学総合診療部の伴信太郎教授をチーフタスクフォースとして企画され、地域医療機関で活躍されている臨床教育教授・准教授をはじめ両校の医学教育に携わっている34名の先生方の参加を得て執り行われました。

ワークショップでは九州大学医学部医学教育学の吉田素文教授の特別講演・現状における事例紹介、建設的な討論・情報交換を経て、多くのコンテンツを作成するに至りました。向後の両校の医学教育の発展に寄与することが期待されます。

・運営組織（実施担当者）

主催責任者	竹中 洋	大阪医科大学	タスクフォース	近藤 敬一郎	大阪医科大学
〃	山下 敏夫	関西医科大学	〃	西本 泰久	大阪医科大学
チーフディレクター	徳永 力雄	関西医科大学	〃	佐浦 隆一	大阪医科大学
チーフタスクフォース	伴 信太郎	名古屋大学	〃	岡田 仁克	大阪医科大学
コ・ディレクター	河野 公一	大阪医科大学	〃	井上 徹	大阪医科大学
〃	米田 博	大阪医科大学	〃	武内 徹	大阪医科大学
〃	木下 利彦	関西医科大学	〃	吉田 清和	関西医科大学
コンサルタント	花房 俊昭	大阪医科大学	〃	福永 幹彦	関西医科大学
特別講師	吉田 素文	九州大学	〃	高田 秀穂	関西医科大学
			〃	木下 洋	関西医科大学

・参加者（34名）

谷本 敬	東大阪市立総合病院	安田 勝行	高槻赤十字病院
島野 裕史	城山病院	里井 壯平	関西医科大学附属枚方病院
和辻 利和	枚方市民病院	加藤 洋	愛仁会リハビリテーション病院
松井 陽一	関西医科大学附属枚方病院	岡本 雅雄	三島救命救急センター
新井 基弘	みどりヶ丘病院	宇田 るみ子	枚方市民病院
宮原 誠二	神崎総合病院	北 祥男	塚口病院
北岡 治子	清恵会病院	木野 昌也	北摂総合病院
小橋 紀之	適寿リハビリテーション病院	小田 幸作	高槻赤十字病院
岡田 隆之	関西医科大学附属枚方病院	森井 功	北摂総合病院
成山 仁	JR大阪鉄道病院	桑山 雅行	公立宍粟総合病院
大中 仁彦	城山病院	樋口 和秀	大阪医科大学
山崎 知行	大阪府立成人病センター	荻野 伸子	信愛会 交野病院
小坂 理也	枚方市民病院	喜田 照代	枚方市民病院
小林 正直	大阪医科大学	張野 正誉	淀川キリスト教病院
福田 泰樹	藍野病院	熊野 穂積	城山病院
齊藤 治	清恵会三宝病院	川口 雄才	一祐会 藤本病院
米虫 敦	関西医科大学附属滝井病院	是枝 ちづ	関西医科大学附属滝井病院

なお、このワークショップ参加者には両校及び厚生労働省からの修了証書が授与されました。



医療安全対策室

■医療に係る安全管理のための職員研修 第24回特別講演会

テーマ：『医療訴訟ガイドンス』

講師：大阪地方裁判所 医事部 裁判官

開催日：平成21年12月11日（金）午後5時～6時30分

平成21年12月17日（木）午後3時～4時30分、5時～6時30分（DVD上映）

第24回特別講演会が12月11日（金）午後5時から、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、大阪地方裁判所医事部 裁判官をお迎えし、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者385名（内リスクマネージャー34名）の出席のもと開催されました。

米田医療安全推進部長の開会挨拶に続き、村尾医療安全対策室長の司会のもと、裁判官より多くの方に関心を持っていただけるような内容で、事例も交え、医療訴訟について紹介していただきました。

講演後の質疑応答では、参加者の活発な質問に対し熱心にお答えいただきました。

また、研修終了後のアンケートも大変好評で、「医療訴訟の概要、裁判の流れ・展開等が理解できた」「医療水準と慣行の違いについて考えさせられた」等のご意見が多数寄せられました。

最後に閉会の挨拶として、米田医療安全推進部長より同先生への謝辞を述べられ、講演が盛会のもと終了しました。



***** お知らせ *****

『医療に係る安全管理のための職員研修』（事例検討会・特別講演会等）の出席は、医療に係る全ての職員（非常勤・派遣・アルバイト・委託職員等も含む）が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。

今年度、既に4回開催しておりますが、研修を受講していない方についてはDVD上映会にご出席いただくか、DVDの貸し出しや医療安全対策室横研修室でいつでも研修が受講できますのでご利用ください。

（お問い合わせ 医療安全対策室 2号館5階 内線2990）

■第5回 リスクマネージャー宿泊研修開催

リスクマネージャーの医療安全に対する意識を高め、互いの情報交換や交流を深める目的として、リスクマネージャーおよびリスクマネージャーの推薦者を対象に宿泊研修を開催いたしました。

主な研修内容は、事例に基づき根本原因を分析する『RCA分析』の手法を用いたグループ演習を中心に行いました。多職種でグループを構成し、実際に演習を重ねて分析から対策立案までを実施していく中で、様々な意見交換がなされ、職種間の領域を超えたコミュニケーションを図ることが出来ました。

今回も医療安全対策室の室員がタスクフォースとなり、講義・演習を進めていきました。また、安全に関するテーマで、下記の先生方にご講義いただきました。2日目のグループでの発表時には、病院長もご出席いただき、「現場のマネジメントに活かしていただきたい」と述べられました。

研修終了後のアンケートでも、職場を離れた場所でそれぞれの立場での考えや意見を述べ、多職種での交流が図れたとの意見が多数あり、大きな成果が得られました。

【開催日】平成21年10月30日（金）9時30分～ 10月31日（土）12時30分

【場 所】ホテル阪急エキスポパーク

【参加者】46名：医師11名、看護師15名、コメディカル他8名、
タスクフォース・スタッフ12名

【タスクフォース】（医療安全対策室員）

村尾 仁 先生（中央検査部）	萩森 伸一 先生（耳鼻咽喉科）
浮村 聡 先生（総合内科）	鈴木 典子 先生（薬剤課）
平松 昌子 先生（消化器外科）	

【主な内容】

- ・RCA講義・演習
- ・安全に関する講義
 - I. クレーム対応について（病院医療相談部 課長 角江 司）
 - II. 化学療法センターにおける医療安全対策について（外来化学療法センター 後藤昌弘）
 - III. ストレスマネジメント（精神神経科 科長 米田 博）
 - IV. ICUでの医療安全の取り組みについて（ICU 室長 梅垣 修）



■第9回感染対策研修会



秋岡 寿一 先生

第9回感染対策研修会は、感染対策室 室員 秋岡寿一先生が、エイズ関連としては2度目となる『本院で診断されたエイズ5症例』と題した講演を行われました。

最初に浮村室長から、現在、本院では積極的にH I Vを診療しているわけではないが、通常の診療中にも遭遇するものであり、特別に恐れるものでもないというところを理解してほしいという目的であると挨拶がありました。

続いて秋岡先生の講演が始まりました。最初に感染からエイズ発症までのウイルス量や免疫の指標等の比較、急性感染期の症状、そのあとウイルスの横ばいが続く無症候感染期についての説明がありました。この無症候感染期は何の症状もなく、健診などでも見つからないことが多く、適切な治療をしなければ日和見感染症などの症状を発症し、平均10年ほどでエイズ発症となります。これには、ウイルスの増殖を抑え込むことが治療の基本となり、多剤併用療法が確立されています。この治療はA R TあるいはH A R Tと呼ばれていると説明があると同時に導入前後の治療成績や導入後のH I V感染者の寿命が伸びている事例や死亡率などが示されました。また、日本全国での任意報告によるエイズ関連の死亡患者数は昨年で18件と報告されていることなどから、エイズの治療法は飛躍的に進歩しており、コントロールのできる慢性ウイルス感染症であると認識がされてきているものの、問題点もあり、新規患者が年々増加しており、社会的予防の成果は未だ見られないとのことでした。

続いて、本院で診断したエイズ5症例が示されました。各症例とも外来受診の際に日和見感染を合併していることから、診察医がエイズを疑い検査を行い診断された事例です。このように診断されるエイズを『いきなりエイズ』と呼び、日本では保健所などで自発的に検査を受ける人が未だに少ないことが原因と考えられるとのことでした。エイズと診断される以前に入院や検査などが行われていた場合の問題点としては針刺し事故があります。H I Vには日和見感染症である場合や積極的に感染を疑えるキーワードがありますが、この場合は事前にH I Vを疑うことは困難でした。しかし、今後もエイズと診断されない患者が受診や検査を受けることはないという保障はなく、標準予防策の徹底が求められます。また、万一、事故が発生した場合も感染が成立するまで時間がかかるので、その間に予防内服を行うことで対処ができます。事故の感染率は肝炎に比べ低いといわれていますが、注射針などの廃棄処理時の事故も多く、注意して処理をして欲しいと述べられました。

その後、事故後の対応として予防投薬を2時間以内に開始する必要があること、その際の連絡先などの説明がありましたが、全ての針刺し事故について基本的にH I V感染の可能性は非常に低い為、H I Vの対応対象外としており、また、皮膚への体液暴露についても感染するリスクはほぼゼロであり、同様にH I Vの対応対象外としているとのことでした。最後に“エイズも診ているよい病院”という標語が出され、「感染症対策は万全であるので、医療を受けられる環境があります。職員も是非一緒に働きましょう。」と呼びかけたい医師と看護師がいる拠点病院の話がありました。また、本院でのエイズ治療に対しての目標数などはありませんが、きちんと取り組むことが一つの目標となるはずであり、対応について今一度考えてほしいと締めくくられ、講演が終了しました。



■ 平成21年度 三島医療圏緩和ケア研修会開催報告

緩和ケア委員会 緩和ケアチーム 川部伸一郎

各がん診療連携拠点病院は、「がん対策推進基本計画」（平成19年6月15日閣議決定）に従って緩和ケア研修会を企画・実施することになっており、当院でも昨年度より二次医療圏（三島医療圏）の医師に対して「すべてのがん診療に携わる医師が研修等により、緩和ケアについての基本的な習得する」ことを目的として緩和ケア研修会を開催しております。今年度も下記要領にて緩和ケア研修会を開催いたしましたので報告させていただきます。

今年度は6名の院内医師に加え4名の院外医師にファシリテーターとして協力していただき、院内外の看護師や臨床心理士にもアシスタントとして協力をしていただきました。また、事務方にバックアップをしていただくことによって、円滑に研修会を行う事が出来ました。参加者は院内の医師19名、院外の医師6名、合計25名の医師が参加されました。プログラムは厚生労働省により定められた「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠したものであり、2日間（820分）に及ぶワークショップ形式の研修会を行い、参加者全員が充実した研修を受けられたと思います。

今後は幅広い年代、診療科、ならびに多くの病院・診療所の先生に参加していただけるように努めてまいりたいと思います。なお、本研修会の全てのプログラムを修了した参加者には、本院ならびに厚生労働省健康局長から修了証が授与されましたので、併せてご報告させていただきます。

1. 開催日時 平成21年11月21日（土） 13：30～20：10
同11月22日（日） 9：00～18：30
2. 開催地 大阪医科大学 図書館棟4階 第1会議室
3. 運営組織

研修会主催責任者	花房 俊昭	アシスタント	二宮 ひとみ	
研修会企画責任者	川部 伸一郎 藤原 俊介		本村 暁子 黒岩 真紀	
研修会協力者	桑門 心	事務局	長嶺 美奈子	
	花岡 忠人		森元 由美	
	岡本 洋平		上田 育子	
	木下 真也		藤原 和子（高槻赤十字病院）	
	林 晶子（京都大学医学部附属病院）		瀧内 比呂也	奥田 敏博
清水 義博（第二岡本総合病院）	岩橋 朗	中谷 尚文		
岡田 圭司（高槻赤十字病院）	河井 祥人	吉浦 真澄		
木元 道雄（高槻赤十字病院）	長谷川 真弓	角江 司		
	小野 美鈴	中村 喜代美		
	田所 洋志			



緩和ケア委員会報告 寄付金報告

4. 参加受講者

平成21年度 三島医療圏緩和ケア研修会 修了証書発行者 (25名)			
氏名	所属	氏名	所属
浅石 健	大阪医科大学	中村 敬彦	大阪医科大学
飯田 亮	北摂総合病院	植林 賢	大阪医科大学
井口 宗威	大阪医科大学	原田 智	大阪医科大学
伊藤 志保	大阪医科大学	藤澤 玲子	大阪医科大学
川上 研	大阪医科大学	邊見雄二郎	大阪医科大学
川口 浩史	大阪医科大学	本庄 紋佳	大阪医科大学
川端 信司	大阪医科大学	舛田 誠二	第一東和会病院
紀 貴之	大阪医科大学	三木 高平	大阪医科大学
高橋 良明	大阪医科大学	四本 仁寛	北摂総合病院
高山 文美	大阪医科大学	吉川 大和	大阪医科大学
高城 武嗣	北摂総合病院	渡邊 牧代	高槻赤十字病院
瀧井 道明	大阪医科大学	川口 哲史	大阪医科大学
辰巳 智章	枚方市民病院	以上25名	

■ 創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成21年10月5日から平成21年12月31日までの間の寄付金入金件数は、30件、金額は4,415,000円です。ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。なお、募集当初から平成21年12月31日までの寄付金入金件数は361件、金額は126,192,000円です。

(順不同・敬称略)

医療法人社団操健康クリニック 医療法人堀永産婦人科医院 株式会社紀伊國屋書店 佐藤 公彦
 宮川 擴 野中 一彦 藤川 光昭 近藤 龍夫 江原 英彦 福森 英雄 松原 健
 児島 隆介 堀口 泰弘 藤本 正三 川上 千年 福田 善彰 渡邊 豊 古田 浩太郎
 松江 運緒 川部 由巳 松野 堅 有吉 孝雄 森 勝純 佐野 浩一 稲森 耕平
 匿名3件

■ 教育環境整備寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成21年10月5日から平成21年12月31日までの間の寄付金入金件数は、3件、金額は9,000,000円です。ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。なお、募集当初から平成21年12月31日までの寄付金入金件数は44件、金額は94,800,000円です。

(順不同・敬称略)

医療法人森永整形外科医院 巽 祐子
 匿名1件

■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

募集当初から平成21年12月31日までの間の寄付金入金件数は5件、金額は177,000円です。

■ 創立80周年記念事業募金別館講堂「机募金」応募状況について

<寄付金申込者>

平成21年10月5日から平成21年12月31日までの間の寄付金入金件数は、2件、金額は600,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成21年12月31日までの間の寄付金入金件数は29件、金額は9,900,000円です。

(順不同・敬称略)

多胡 和司 古田 浩太郎

■ 新学部設置事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成21年10月5日から平成21年12月31日までの間の寄付金入金件数は、13件、金額は4,820,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成21年12月31日までの間の寄付金入金件数は90件、金額は27,721,000円です。

(順不同・敬称略)

有限会社すばる印刷 株式会社神陵文庫 東洋美工株式会社
内藤 尚武 藤田 和子 大槻 哲彦 森本 純司
匿名1件

■ 大阪医科大学基金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成21年10月5日から平成22年1月6日までの間の寄付金入金件数は、70件、金額は7,052,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成22年1月6日までの間の寄付金入金件数は120件、金額は11,622,000円です。

(順不同・敬称略)

ユウキ産業株式会社 進和テック株式会社大阪支店 株式会社公益社 医療法人川村会くぼかわ病院
ディーアイエスソリューション株式会社 大同生命保険株式会社 医療法人景岳会南大阪病院
株式会社神陵文庫 WDB株式会社 株式会社ファルコバイオシステムズ 株式会社モリタ製作所
医療法人社団英明会大西脳神経外科病院 日本GE株式会社 協栄ビル管理株式会社 東洋美工株式会社
門田 雅人 村上 壽徳 木島 良民 河内 明 矢津 和宏 福田 謙二 谷村 和治
西山 裕子 小牟田 美幸 牟禮 洋子 吉田 さとみ 濱本 由美子 森安 朋子 守本 俊子
山川 由加 森本 真佐子 袖岡 秀幸 村上 澄子 金田 恵孝 池本 敏行 井口 健
荻野 一子 竹内 淑恵 藤岡 重和 山口 みゆき 大野 博司 石川 俊明 澤村 律子
朝日 通雄 大槻 勝紀 勝岡 洋治 谷川 允彦 南 敏明 米田 博 西村 保一郎
辻 求 白田 寛 奥田 準二 西本 泰久 寺井 陽彦 森本 純司 木村 正士
金森 ひろ子 出坂 秀雄 大野 浩二 平井 実 成松 正治 田原 一也 森 浩志
高井 七重 植田 政嗣
匿名4件

※これまで恒常的なご寄付はフレンズ会で承っていましたが、今後は「大阪医科大学基金」で承っていくこととなりますので、今までどおり恒常的なご寄付を賜りますようお願いいたします。

※寄付についてのお問合せ先

募金推進本部

TEL：072-684-7243(直通) FAX：072-681-3723

E-mail：kikin@art.osaka-med.ac.jp

保健管理室からのお知らせ

■ インフルエンザワクチン接種について

新型インフルエンザ流行により、今年度のインフルエンザワクチン接種は、新型、季節性インフルエンザともにワクチン量が限られ、10月末の段階での割当量は、新型インフルエンザワクチンが約600名分、季節性インフルエンザワクチンが約1700名分と大幅に不足していました。そのため接種順位を決め、感染リスクの高い教職員、学生から優先的に接種を開始しました。

その後、附属病院薬剤部のご尽力で、季節性インフルエンザワクチンは12月末の段階で教職員・学生2347名が接種することができました。新型インフルエンザワクチンについても1月末に健康成人への接種が開始され、本学教職員・学生の希望者全員が接種しました。

■ 定期職員健康診断を終えて

平成21年度の定期健康診断は、10月19日（月）～10月30日（金）の10日間で実施しました。毎年、医療監視で教職員の健康診断受検率は重要項目になっているにも関わらず、現時点でも未だ受けておられない方が1名おられます。もちろん、医療監視のためではなく自己健康管理のためにも、職員健康診断を必ずお受け頂きますようお願い致します。

■ 有機溶剤・特定化学物質健康診断、長時間労働者健康診断について

平成21年度秋期の、有機溶剤・特定化学物質健康診断の対象者は133名であり、受検率は100%でした。健康診断の結果、有機溶剤・特定化合物質の取扱いによると考えられる健康障害を認めている方はおられませんでした。

乳癌触診モデルを購入しました！！

本学では、平成19年度より大腸がん検診を希望者には実施しておりますが、他のガン検診にも着目して、今年の健診会場には乳癌触診モデルを設置致しました。そして、定期的な検診や自己検診を勧めるなどして乳ガン検診勧奨を行いました。

乳ガン検診だけでなく、胃ガン検診や子宮ガン検診などを受けるには、各自お住まいの住民健診や、人間ドック（35歳以上の私学共済加入者には上限35,000円補助有）を利用する方法があります。年に1度は受けられることをお勧めします。

尚、乳癌触診モデルを体験されたい方は、保健管理室に随時ありますので、いつでもお気軽にお越し下さい。

■ 2010年度予定

2010年度の各種健康診断・感染症事業予定は下記のとおりとなります。詳細は対象者の方々に随時ご案内しますので、必ず受検して下さい。

また健康診断、感染症事業の実施においては、中央検査部、中央放射線部、病院感染対策室、薬剤部など関係部署の多くの方々のご協力で実施しています。厚く御礼申し上げます。

健康診断名	対象者	実施時期	関連法規
学生定期健康診断	医学部学生、看護学生、大学院生	4月～5月	学校保健安全法第2章第13条
職員定期健康診断	教職員、レジデント、研修医、非常勤職員	10月	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第44条、学校保健安全法第2章第15条
特定健康診断・特定保健指導	40歳以上の教職員	10月	高齢者の医療の確保に関する法律第20、24条
特定業務従事者健康診断	深夜業務に従事している者	5月、10月 (6ヶ月毎)	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第45条
雇入時健康診断	雇入者	随時	労働安全衛生法第66条、労働安全衛生規則第43条
電離放射線健康診断	電離放射線業務に従事している者	4月、10月 (6ヶ月毎)	労働安全衛生法第66条、電離放射線障害防止規則第56条
有機溶剤・特定化学物質健康診断	有機溶剤、特定化学物質取扱者	5月、10月 (6ヶ月毎)	労働安全衛生法第66条、有機溶剤中毒予防規則第9条、特定化学物質等障害予防規則第39条
長時間労働者健康診断及び面接指導	月45時間以上の時間外・休日勤務者	5月、10月	労働安全衛生法第66条
血液浄化センター・臨床工学会定期検診	血液浄化センター、臨床工学会職員	4月、9月	
QFT検査	雇入者、医学部・看護学部1年生、大学院1年生	4月、雇入時	
感染症抗体検査	雇入者、看護学部1年生、大学院1年生	4月、雇入時	
B、C型肝炎抗原抗体検査 B型肝炎ワクチン接種	教職員、学生	4月、6月、 7月、12月	
インフルエンザワクチン接種	教職員、学生	11月	

主要会議報告

■主要会議とその主な議題(平成21年11月～平成22年1月)

【理事会】

[平成21年11月10日]

—審議事項—

1. 大阪医科大学基金と大阪医科大学フレンズ会の統合について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会理事会報告
3. 平成20年度決算書類(キャッシュフロー計算書)について
4. その他
 - 1)健康科学クリニックについて
 - 2)学事関係報告
 - 3)病院関係報告
 - 4)看護学部設置関係報告

[平成21年12月8日]

—審議事項—

1. 理事の選任について
2. 学校法人大阪医科大学アドバイザーの選任について

—報告事項—

1. 上半期収支状況報告
2. 担当理事運営会議報告
3. 日本私立医科大学協会報告
4. 日本私立大学連盟報告について
5. 平成21年度冬季賞与について
6. その他
 - 1)健康科学クリニック関係出張報告
 - 2)学事関係報告
 - 3)病院関係報告
 - 4)看護専門学校関係報告

[平成22年1月19日]

—審議事項—

1. 平成21年度予備費の使用について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 日本私立医科大学協会関係報告
3. 理事長、学長並びに附属病院長に関する職務権限の規定について
4. 健康科学クリニックについて
5. 歴史資料館関係報告
6. その他

- 1)学事関係報告

- 2)病院関係報告

- 3)募金推進本部報告

【大講座主任教授会】

[平成21年11月11日]

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 看護学部設置に伴う今後の大講座主任教授会について
3. 教員評価の実施について
4. 推薦入試における入学資格審査について
5. その他

[平成22年1月13日]

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 今後の大学院の在り方について
3. 教員評価の実施について

【教授会】

[平成21年11月4日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 内科学講座内科学Ⅲ教室(循環器学専攻)教授選考委員会委員の選出について
3. 内科学教室の在り方学長諮問委員会について
4. 大阪医科大学教授会規程の改正について
5. 第5学年の進級判定について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 倫理委員長報告
3. 教育センター長報告
4. 病院長報告
5. その他

[平成21年11月18日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 第6学年卒業の可否判定について
3. 大阪医科大学教授会規程の一部改正(案)について
4. 学内規程検討委員会(仮称)委員の選出について

5. 第5学年の進級判定について
 6. 学部・附属病院将来計画学長諮問委員会答申書について
 7. 第1学年について
 8. 総合教育について
 9. 古谷教授及び北浦教授の名誉教授資格について
 10. 大阪医科大学看護学部入試実務委員会規程について
 11. 臨床教育教授及び臨床教育准教授について(診療所)
 12. 健康科学クリニックについて
- 報告事項—
1. 理事会報告
 2. 学長報告
 3. 教育機構長報告
 4. 病院長報告

[平成21年12月2日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. GPに関する内部評価委員会規程(案)について
3. 医工薬連携GPでの双方向授業の認定について
4. 病院長予定者選考規程等の改正について
5. 図書館長の選挙について
6. 内科学講座内科学Ⅲ教室(循環器学専攻)教授選考委員会委員長の選出および今後の選考日について
7. 感覚器機能形態医学講座耳鼻咽喉科学教室教授の選考について
8. 平成22年度医学部入学試験に関する件
9. 大阪医科大学学内規程検討委員会規程(案)について
10. 大阪医科大学メディカルトレーニングサポートセンター規程(案)について
11. 周産期教育支援委員会規程(案)及び周産期医療環境整備事業評価委員会規程(案)について
12. 内科学教室の在り方学長諮問委員会委員長の指名について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育センター長報告

4. 倫理委員長報告
5. 病院長報告
6. その他

[平成21年12月16日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 病院長予定者選挙管理委員会委員の選出について
3. 図書館長候補者推薦委員会委員の選出について
4. 大阪医科大学学則(別表)等の一部改正について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 図書館長報告
4. 教育機構長報告
5. 病院長報告
6. 倫理委員長報告

[平成22年1月6日]

—審議事項—

1. 大阪医科大学図書館長選出に関する規程の一部改正について
2. 図書館長選挙管理委員長の選任について
3. 感覚器機能形態医学講座耳鼻咽喉科学教室教授の選考について
4. 大阪医科大学学則(別表1)の一部改正について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育センター長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告
4. 広報・入試センター長報告
5. 病院長報告
6. その他

[平成22年1月20日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 病院長予定者選挙について
3. 看護学部のカリキュラムについて
4. 内科学講座内科学Ⅲ教室教授の選考について
5. 平成21年度本学学生褒章(学長賞・学長特別賞)

主要会議報告

の選定について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育センター長報告
4. 病院長報告
5. 市民公開講座運営委員会報告
6. その他

【大学院医学研究科委員会】

〔平成21年11月4日〕

—報告事項—

1. 平成21年度大学院医学研究科第Ⅱ回学位記授与式について

〔平成21年11月18日〕

—審議事項—

1. 平成21年度第Ⅱ回学位論文審査結果に基づく可(合)否承認に関する件
2. 学外研修許可願について

—報告事項—

1. (がんプロフェッショナル養成プラン)臨床腫瘍学 e-ラーニング聴講募集について
2. 平成21年度第Ⅲ回学位論文申請受付について

〔平成21年12月2日〕

—審議事項—

1. 大阪医科大学大学院個人情報保護規程の一部改正について

—報告事項—

1. 臨床研究教育研修会について
2. 平成22年度大学院入学試験願書受付について

〔平成21年12月16日〕

—審議事項—

1. 学外研修許可願について
2. 平成22年度統合講義に係る担当者の斡旋について
3. 大阪医科大学大学院研究生規程(案)について

—報告事項—

1. (本年12月8日開催)臨床研究教育研修会報告
2. 平成22年度大学院入学試験願書受付状況について
3. 平成22年度共同利用実験施設セミナー日程について

〔平成22年1月6日〕

—報告事項—

1. 平成22年度大学院入学試験願書受付状況について
2. その他
 - 1) 循環器系を専攻している大学院生について

〔平成22年1月20日〕

—審議事項—

1. 平成21年度第Ⅲ回学位論文審査申請受理可否について
2. 退学願について
3. 学外研修延長願について
4. 大学院医学研究科に係る改革等について(案)
5. 大阪医科大学における研究生の取扱について(案)

—報告事項—

1. 平成22年度大学院入学試験出願者数および入学試験について
2. 臨床研修教育研修会(3月8日実施)について
3. 研究生継続手続について
4. 平成21年度成績評価に係る件
 - ①平成21年度統合講義レポートおよび学生手帳の提出について
 - ②大学院4年生の成績評価に係る書類提出について
5. 平成22年度大学院教育要項(シラバス)作成について
6. がんプロフェッショナル養成プラン外部評価報告書について



■主な行事日程(平成22年3月～5月)

3月2日(火)	医学部センター試験利用入学試験 2次試験	24日(水)	病院運営会議
3日(水)	教授会・診療科長会 医学部センター試験利用入学試験 2次試験合格発表	26日(金)	第99回看護師国家試験合格発表
5日(金)	医学部卒業式	29日(月)	第104回医師国家試験合格発表
6日(土)	第3回歴史資料館市民講座	30日(火)	理事会・評議員会
9日(火)	理事会・看護学部一般入学試験 (後期)合格発表	4月2日(金)	大学院入学宣誓式
10日(水)	医学部一般入学試験(後期)1次 試験・看護専門学校卒業式	3日(土)	医学部・看護学部入学宣誓式
16日(火)	教授会・医学研究科委員会 医学部一般入学試験(後期)1次 試験合格発表	7日(水)	診療科長会
19日(金)	医学部一般入学試験(後期)2次 試験・看護専門学校終業式	8日(木)	看護専門学校始業式
20日(土)	臨時教授会・医学部一般入学試験 (後期)2次試験合格発表	13日(火)	理事会
21日(日)	看護専門学校春期休暇(～4/7)	17日(土)	平成22年度第1回市民公開講座
		28日(水)	病院運営会議
		5月6日(木)	ナイチンゲール生誕祭
		8日(土)	看護専門学校学校祭(白友祭)
		11日(火)	理事会
		12日(水)	診療科長会
		15日(土)	平成22年度第2回市民公開講座
		26日(水)	病院運営会議
		29日(土)	理事会・評議員会

◆大阪医科大学俳句会(十一・十二・一月)

アセチレン路にじませて霧のバス	山崎隆司
初髪やついで参りの天狗堂	同
茶筌師は一子相伝寒椿	中川一成
豊凶を粥占ひの五日かな	同
扁額は右読み野菊の一輪挿	吉田孝江
餅花や分子模型のアーケード	同
返り花夫に似し声みかへらす	飯塚久子
実紫手を窪ませて母を聴く	同
父の声して寒林はすぐ暮れる	美濃 眞
逝く秋のテントを畳む軽業師	同
角切や定紋の幕めぐらして	宮脇芳美
旧姓で呼ばれ答へる野菊径	同

● LDセンター イルミネーション点灯式 ●

12月4日（金）午後4時30分より、LDセンターにて第8回イルミネーション点灯式を行いました。今年も「小児ボランティア部」の学生さんにダンスをしていただきました。子どもたちもステージに上がって一緒に踊り、何度もアンコールをするほほえましい姿が見られました。また、昨年のバルーンアートに代わって今年は皿回しの実演と体験会が行われ、普段は元気いっぱい走り回る子どもたちが、神妙な顔つきで皿回しの棒をにぎり、棒の先にのせてもらったお皿をじっと見つめていました。

センター内のホールでは“気まぐれコンサート”が行われ、フルートやピアノに今年はヴァイオリンも加わり、美しい調べに子どもたちも保護者の方々も聞き入っていました。

恒例のビンゴ大会では、サンタが発表する数字に、子どもたちがカードを見つめながら一喜一憂し、最後の一人がプレゼントをもらえたときには拍手が起きました。

楽しいひと時を過ごした子どもたちは、もらったプレゼントを大事そうに抱えて、名残惜しそうに帰って行きました。



フルート： 久川多恵子さん（薬理学教室）
 ピアノ： 安積裕子さん（LDセンター関係者）
 バイオリン： 北野裕孝さん（本学4年生）



● 附属病院イルミネーション点灯式 ●

平成21年12月1日（火）午後5時から、附属病院玄関前ロータリーにおいて、病院イルミネーションの点灯式が行われました。点灯の時刻には大勢の患者さまや職員の方々が集まり、盛大に行われました。点灯された瞬間には、参加者から大きな歓声が上がり、拍手で点灯を喜びました。点灯式の模様は高槻ケーブルテレビでも放送されました。

病院玄関でのイルミネーションの点灯は、今年が初めてのイベントです。看護部の発案で、医師・看護師・コメディカル・事務員等、多くの職員の方々の募金をもとに実現しました。病気で来院されたりご入院になっている方々に、少しでも温かい気持ちになり、安らぎと笑顔を取り戻していただきたいという職員の願いの結晶として、色とりどりのイルミネーションが飾られました。

高さ11メートルのヒマラヤスギ2本には、一番上に星形のイルミネーションが飾られ、そこからロープライト各20本が飾られました。その周りには、トナカイに引かれたサンタクロースなども美しく飾られました。イルミネーションの前では、多くの人達が記念写真を撮る光景も見られました。使用した電球は約20,000個で、地球温暖化対策のため、環境に優しいLED電球を使用しました。2号館の南側の病室や7号館の西側の病室からは、直接イルミネーションを見ることができます。直接見ることのできない小児科など他の病棟の患者さまにも、会議室等から点灯式を見ていただきました。

今回の試みは、幸い患者さまや職員の皆様から御好評をいただきましたので、来年度も是非実現させたいと考えております。最後になりましたが、募金をいただいた皆様にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



病院長 花房 俊昭

表紙絵：シクラメン（サクラソウ科シクラメン属）

花期は秋から春、促成栽培により、冬の花として有名になったが、本来は3～4月である。俳句の花図鑑によれば、季語は晩春である。

球根からきた名前「豚のパン」篝火（かがりび）の様に見えることから「篝火草」と言う、好印象がもてない名前とすばらし花の姿を的確に表した二つの和名があるが、和名で呼ばれることはほとんどない。元々地中海沿岸（トルコからイスラエル）に自生する。明治時代に日本に伝わったが、高温多湿の気候にあわず、育たなかった。日本人の知恵と努力により、品種改良に改良を重ね冬の鉢植えの代表格になっている。種々の品種がある。

上に向かい燃えるような深紅の花と葉の調和に魅せられて我が家では、正月の花として毎年玄関先を飾る。

大阪医科大学 名誉教授 富士原 彰

個人情報の取扱について：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第83号

発行年月 平成22年2月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>